

センターだより

和歌山県障害者社会参加推進センター
〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛5階

発行人 鳴 神 賢
TEL 073-423-2665
FAX 073-428-0515

「スローガン」
改正障害者の理解啓発の理解啓発を図ろう

第65回 和歌山県身体障害者福祉大会

9月4日(日)県民交流プラザ和歌山ビッグ愛大ホールにおいて開催を予定していましたが、第65回和歌山県身体障害者福祉大会は、新型コロナウイルス感染症第7波による感染拡大状況を受け、残念ながら大会プログラムを配布して行う書面形式ではありましたが、3年ぶりに開催することができました。

今回の大会スローガンは次のとおりです。
一、改正障害者差別解消法の理解啓発を図ろう
一、障害者の防災対策・意識の強化を図ろう
一、障害者が安心して生活できるまちづくりを推進しよう

一、障害者の雇用・就労対策の推進を図ろう
なお、今大会において、身体障害者福祉の向上に貢献された方々に、県連盟会長表彰が贈られました。
受賞された方々は次のとおりです。(敬称略)

- 特別表彰**
和歌山市 幸前 勇
和歌山市 門脇 静代
- 礎賞**
和歌山市 能澤 義一
印南町 門脇 秀和
- パイオニア賞**
御坊市 柳岡 克子

また、大会宣言は次のとおりです。
コロナ禍を越え、身体障害者福祉の向上を目指して、第65回和歌山県身体障害者福祉大会を開催することができた。
昨年5月に、改正「障害者差別解消法」が成立し、これまで努力義務であった民間事業者による合理的配慮の提供が義務化された。このことは、障害の有無によって分けへだてられることなく、相互に人格や個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて大きな一歩である。

ち身体障害者一同は、福祉の前進をめざし、次のとおり決議する。
一、障害者等用駐車スペースの拡充と適正な利用の促進を図りたい。
一、災害時における福祉避難所のガイドラインの周知を図りたい。

一、多目的トイレを増設していただきたい。
一、聴覚障害者の交通情報アクセスについて、関係機関に働きかけられたい。
一、ICTによる聴覚障害者への情報保障について、民間企業等に働きかけるとともに当面の予算支援の取り組みを図られたい。

一、災害緊急記者会見及び県民向け等の放送における情報保障の徹底を図られたい。
一、駅の利用についてサポート体制の充実を図られたい。
一、同行援護の充実を図られたい。
一、盲学校に中途視覚障害者の生活訓練課程を設置されたい。

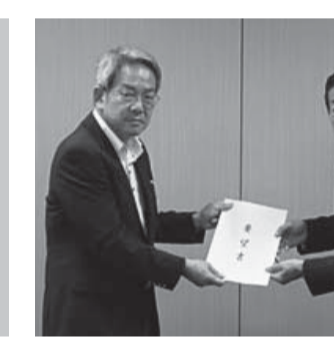
「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という障害者権利条約の理念のとおり、私たちは声をあげ、進んでいかなければならない。
コロナ禍を乗り越え、誰もがどんな時でも、地域間の格差なく、安心安全に暮らしている地域づくりを目指して、県内各郡市の障害者団体及び会員が一致団結して尽力することを誓い、ここに宣言する。

第65回和歌山県身体障害者福祉大会に参加した私たちが

一、和歌山県身体障害者連盟加盟団体の組織強化に協力

「スローガン」
改正障害者の理解啓発の理解啓発を図ろう

また、大会決議について、要望書として取りまとめの上、9月6日(火)県庁特別会議室において、西井連盟会長から志場紀之(しのばし)県福祉保健部長に手渡されました。
(和歌山県身体障害者連盟)



令和4年度和歌山県との話し合い開催

身体障害者の自立と社会参加並びに福祉の増進を図ることを目的として、「和歌山県との話し合い」を令和4年10月4日(火)和歌山県自治会館で行いました。
当日は、県身体障害者連盟から各郡市の代表及び連盟役員など26名が、和歌山県からは16の関係課室から29名の職員の方々に出席をいただきました。
各郡市から寄せられた要望は、

- 1 公共施設関係 5項目
- 2 防災関係 1項目
- 3 生活・くらし関係 10項目
- 4 道路・駐車場関係 4項目

一、和歌山県身体障害者連盟加盟団体の組織強化に協力

5 JR等移動関係 3項目
6 その他 3項目
3項目の26項目、いずれも私たちが自立した生活を送り、社会活動に参加するために必要なことばかり。
これに対して、和歌山県から回答をいただき、その後限られた時間ではありましたが、質疑、意見交換を行いました。

紙面の都合上、詳細を掲載することはできませんので、別途各郡市団体にその概要等を送付しています。
また、県との話し合いに先立ち、有料道路の障害者割引に際し、和歌山県障害福祉課並びに高速道路推進室のご協力を得て、9月28日(水)ネクスコ西日本和歌山高速道路事務所において要望活動を実施しました。今後とも様々な機会を活用し、要望内容の実現に向け取り組んでまいります。
(和歌山県身体障害者連盟)



障害者雇用支援月間に係る啓発活動

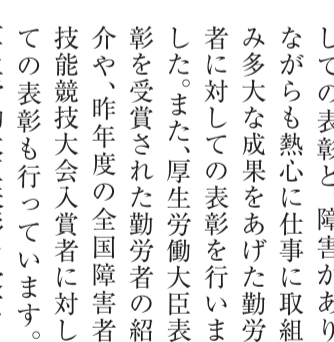
障害者雇用支援月間の初日である9月1日(木)に、JR和歌山駅前街頭啓発を実施しました。令和2年度、3年度と新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていたところ、今年度は3年ぶりにようやく実施することができました。啓発には和歌山労働局、和歌山県、和歌山市及び関係団体の職員約

40名が集まり、障害者就労施設等で作成したグッズを配布し、県民に対して障害者雇用についての理解と協力を訴えました。

9月16日(金)には、障害者雇用優良事業所等表彰式を開催しました。表彰式は独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構と和歌山県の共催で、障害者雇用に積極的に取組んだ企業に対しての表彰と、障害がありながらも熱心に仕事に取り組む多大な成果をあげた勤労者に対しての表彰を行いました。また、厚生労働大臣表彰を受賞された勤労者の紹介や、昨年度の全国障害者技能競技大会入賞者に対しての表彰も行っています。
厚生労働大臣表彰を受賞された方へのインタビューでは、受賞の喜びと今後の抱負を伺いました。
加えて、和歌山労働局と連携して、従業員数31人以上の県内企業に対して障害者雇用促進の要請文を発送しました。
(和歌山県庁労働政策課)

10月30日(日)、和歌山市ふれ愛センターにおいて、15名参加のもと令和4年度和歌山県視覚障害者福祉協会研修会を開催しました。
当日は、和歌山県視覚障害者福祉協会幸前勇副会長が「プレクストークの体験と題し、講演いたしました。また来賓として、井筒博紀県障害福祉課長にご臨席いただきご挨拶をいただきました。
プレクストークを使った基本操作について幸前先生にお話していただきました。
プレクストークとは、ディスプレイのない・見えにくい方のための「情報交換会」

10月15日(土)に和歌山県点字図書館及び和歌山県視覚障害者福祉協会共催により、24名参加のもと令和4年度見えない・見えにくい方のための交流サロンとして「情報交換会」を開催しました。
当日は、和歌山県視覚障害者福祉協会の宮本克二会長に座長兼アドバイザーをお願いし、はじめに交流を深めるために自己紹介をしていただき、その後日頃の困っていることや、どのような情報が必要かなどを話し合いました。
同じ境遇の仲間を見つけ方や、趣味に対するモチベーションの保ち方など、見えな



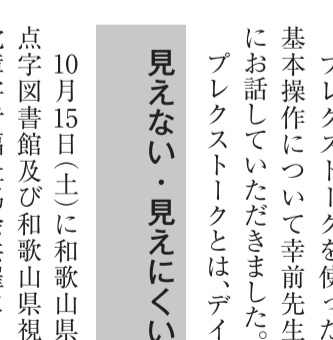
生活福祉資金貸付のご案内

和歌山県社会福祉協議会では、県内にお住まいの障がいのある方がいる世帯を対象とした貸付けを実施しています。
例えば、障がいのある方の通学、通院、日常生活上の社会参加を行うために自動車が必要の際は、福祉資金(障害者用自動車の購入に必要な経費)、日常生活を送りやすくするためにスロー

ジーンという特殊な形式で録音されたCDを再生する専用機です。
機器の操作を各々実践し、最後はプレクストークについて質疑応答をする場面もあり、和気あいあいとした楽しい研修会となりました。
(和歌山県視覚障害者福祉協会)

い・見えにくい方ならではの悩みに対して、座長や他の参加者から多くのアドバイスがなされました。
最後の方には参加者同士が自由に交流できる時間を設け、今後繋がる情報交換会となりました。
(和歌山県点字図書館)

プを付けたたり、段差をなくす等の改修が必要な場合には、福祉資金(住宅の増改築、補修等及び公営住宅の譲り受けに必要な経費)があります。
貸付けに当たっては別途条件や審査があります。希望される方は、お住まいの市町村社会福祉協議会にお問合せ下さい。
(和歌山県社会福祉協議会)



和歌山県社会福祉協議会では、県内にお住まいの障がいのある方がいる世帯を対象とした貸付けを実施しています。
例えば、障がいのある方の通学、通院、日常生活上の社会参加を行うために自動車が必要の際は、福祉資金(障害者用自動車の購入に必要な経費)、日常生活を送りやすくするためにスロー

和歌山県社会福祉協議会では、県内にお住まいの障がいのある方がいる世帯を対象とした貸付けを実施しています。
例えば、障がいのある方の通学、通院、日常生活上の社会参加を行うために自動車が必要の際は、福祉資金(障害者用自動車の購入に必要な経費)、日常生活を送りやすくするためにスロー

和歌山県社会福祉協議会では、県内にお住まいの障がいのある方がいる世帯を対象とした貸付けを実施しています。
例えば、障がいのある方の通学、通院、日常生活上の社会参加を行うために自動車が必要の際は、福祉資金(障害者用自動車の購入に必要な経費)、日常生活を送りやすくするためにスロー

和歌山県社会福祉協議会では、県内にお住まいの障がいのある方がいる世帯を対象とした貸付けを実施しています。
例えば、障がいのある方の通学、通院、日常生活上の社会参加を行うために自動車が必要の際は、福祉資金(障害者用自動車の購入に必要な経費)、日常生活を送りやすくするためにスロー

40年ぶり、高等学校で
精神疾患を「自分のこ
と」として教育する

約40年前、1978年告示の高校の学習指導要領から精神疾患の記述が消えました。

授業時間と学習内容を減らすために学習指導要領から削除されました。

それまで教えていた授業は、優生保護法(※)の時代で「精神疾患は危険」という認識が強く、教科書においてさえ精神疾患について誤解と偏見に基づく記載がありました。

今年4月から学習指導要領が改定され、高校の保健体育で「精神疾患と予防回復」を学ぶことになりました。

高校で精神疾患について学ぶ背景は、学校でのメンタルヘルス(心の健康)の現状に迫り、これを求めていると思います。

精神疾患全体で発症年齢のピークが10代前半にあることが分かっています。

今回の高校の学習指導要領は、保健体育において具体的なうつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを取り上げ、精神疾患は誰にもかかってくることや、若年で発症する疾患が多いことなどに触れるほか、心身の不調の早期発見・治療・支援の開始によって回復する可能性が高まること、精神疾患が偏見や差別の対象ではないことなどを理解できるよう指導する内容となっています。

余儀なく精神疾患者をもつことにより絶望の淵にいた多くの家族は「精神疾患の知識をもっていたら」と、長年拭いきれない後悔の気持ちを持ち続けて過ごしております。

現在、新型コロナウイルス感染症により、国民的課題になっているメンタルヘルスは地域社会に付きつけられ日常生活に欠かさない状況になってい

ます。精神疾患について正しく理解をして、精神疾患を他人ごとではなく、自分自身にも関係のある身近な病気として捉え、抵抗なく話題になる社会を願っています。

子供たちが精神疾患について知り、自分あるいは、周りの人の不調に気づくことは勿論、不調の際に、「助けて」と援助を求められる環境づくりが大切だと思えます。

精神疾患を正しく知ることには偏見除去にもなり、相手を気遣う気持ちや芽生え、いじめの防止になるのではと思っています。

※優生保護法・1948年に「不良な子孫の出生を防止する」ことを目的に制定された法律。

1996年に「母体保護法」に改正され、障害者差別に当たる部分などが削除された。

小学生、中学生の義務教育にも

今後は、小学生、中学生の義務教育にも「心の病について」と題し、教育を導入していくことにより、家庭内で気軽に会話ができる雰囲気醸成し出されると思えます。

「こころの病」が近隣地域社会へと波及していき、取り残されているヤングケアラーの課題にも目が向けられ、自ずと障害があるなしにかかわらず関係なく、共生社会へと展開していくことを切望しています。

(和歌山県精神保健福祉家族会連合会)

点字啓発セミナー

8月7日(日)、和歌山市ふれ愛センターにおいて、20名参加のもと令和4年度和歌山県視覚障害者福祉協会点字啓発セミナーを和歌山県点字図書館と共同で開催しました。

当日は、和歌山県点字図書館の職員で、ご自身も視覚に障害がある亀山直美先生にお越しいただき、「点字ワールドへようこそ」と題し、お話しいただきました。

講演の内容は、亀山先生の点字技能師への道のりや、スマホで気軽に点字を学習できるアプリの紹介、点字の豆知識など、知ってるようで知らない点字のあれこれをご講演いただきました。

亀山先生は、点字を習得することによりパソコンやスマホ等が壊れてしまったとき、手描きメモがあれば消えずにすんだり、SNSなどで発信することで同じ趣味の人と繋がりが意図を交わしたりするなど、色んなメリットがあるということも教えていただきました。

ただ点字は使える人が少ないということもあり、亀山先生は点字がどれほど大事かということを伝えていきたいと仰っていました。

また、後半には点字についてセミナー参加者が亀山先生へ質疑応答をする場面もあり、点字について情報を共有できる貴重な機会となりました。

(和歌山県視覚障害者福祉協会)

第55回 全国肢体不自由児者父母の会連合会
全国大会が開催される
9月10日(土)、愛知県のワゾールホテル豊橋において開催された全国肢体不自由児者父母の会連合会主催の全国福祉大会に和歌山県障害児者父母の会連合会が

参加いたしました。

「住み慣れた地域で自分らしい生活ができる共生社会の実現」をテーマに、バリバラで活躍される玉木幸則氏の基調講演と大地震に備えたトークセッションが行われました。また、大会決議後は3年ぶりに交流会が行われ、寸劇上映や福引きで会場は大いに盛り上がりました。

(和歌山県障害児者父母の会連合会)



令和4年度 和歌山県
肢体障害者部会研修会

10月19日(水)県民交流プラザ和歌山ビッグ愛会議室にて、25名参加のもと、令和4年度和歌山県肢体障害者部会研修会を開催しました。

例年の研修会は福祉施設等へお伺いして見学させて頂くのですが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、福祉施設の関係者の方に来ていただいてお話を伺う形で行いました。

全国初の精神障害者福祉工場として開所し、現在は就労継続支援事業所として洗濯・クリーニング業に取り組みされている、ソーシャルファーム・ピネル(和歌山市)より施設長の山本哲士様をお招きして、精神障害者に対する福祉政策の歴史や生活支援・労働支援の取り組みなど、貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。

障害の種類に関わらず、障

者が生活しやすい環境を作るために、行政や地域など、障害者を取り巻く社会との連携が重要だと学ぶことができた研修会となりました。

(和歌山県肢体障害者部会)

第59回近畿
視覚障害者卓球大会

10月9日(日)、近畿9府県の持ち回りで毎年行われる近畿視覚障害者卓球大会(サウンド・テーブル・テニス、略してSST)、今年は奈良県田原本町で開催されました。

8チームで競われた団体戦では和歌山県が優勝し、個人戦では男性一部東克己、女性一部亀山直美が優勝しました。

団体戦のメンバーは東克己、沢田留司、亀山直美の3名です。団体戦の様子をお届けします。団体戦は、3人1チームを作ります。

一番手・男性一部選手、二番手・女性一部選手、三番手・自由枠(一部、二部、性別を問いません)。

なお、一部とは、全盲またはアイマスクを付けて視力を封じた部の呼称、二部とは、視力を用いて戦う選手の部の呼称です。二部は、相手の手元まで見える、0.3ほどの視力の選手から、動きを追うのがやっとという0.01の視力の選手まで、基礎能力差が大きい部門です。視野や視力の少ない選手が勝ち上がるのは至難の業です。

一部男性と一部女性が2敗してしまうと、最終戦は行われないルールですので、とにかく一部の選手が1勝上げないとけません。

初戦相手は、今大会の開催地、奈良県でした。我がチームの東さんはコートを使い勝手や審判のくせなど確かめつつ、パワーサーブを駆使して堅実に勝利。続く私はお

相手の女性選手がいなかったため不戦勝をいただきまして、これで一回戦突破です。チーム作りに苦慮しているのは和歌山だけではないのです。

続いて堺市チームです。早いスマッシュとコーナーをつく遅いショットで緩急をつける選手を相手に、東さんは集中力を切らすことなく迎え撃つて勝利。私の相手は競技を始めて間もない選手であったこともあり勝利することが出来ました。

決勝戦は大阪府チームでした。落とさないコーナーサーブと高速サーブを組み合わせたテクニカルな選手が相手です。結果はネットフォルトを恐れず果敢に攻めた東さんの勝利。私の相手も高速サーブ大好きな豪快な選手でしたが、必殺技を持たずレシーブ大好きな私にとっては、楽しくプレーをできたことが勝因と言えるかもしれません。

このように、SSTは、音を聞く集中力、追い詰められ取られず捕球し、狙った場所へ打ち返す技術、相手と審判のくせを見抜く洞察力、反射神経など、総合的な能力を駆使する球技です。

年齢問わずに楽しめますので、ぜひ、この競技に触れてみてください。

(和歌山県視覚障害者福祉協会青年部 亀山)



点字ニュース
即時提供システム

このシステムは日本視覚障害者団体連合(日視連)が厚生労働省の委託を受け、新聞等による最新の情報を全国の視覚障害者に点字で提供することを目的として平成2年にスタートしました。

現在は、厚生労働省の補助事業として点字に加え、電話による音声読み上げ、インターネットを介した閲覧・メール配信と、利用者のニーズに合わせてサービスを拡大しております。

内容は、データベースサービ「日経テレコン21」で提供される日本経済新聞などの新聞情報に加え、日視連独自に取材した福祉情報、全国各都道府県に設置された実施機関から提供される地域情報などで、月曜日から金曜日の毎日、「点字」ニュースとしてお届けしております。

点字版は全文、墨字版(ホームページから閲覧・メール配信)は日視連記事のみご利用いただけます。

【ご利用方法】
・インターネット版(点字データ提供および閲覧・メール配信)は、本サイト(https://jibnews.jp/)から登録をお願いします。

・点字版(郵送)年間3600円は、和歌山県身体障害者連盟にお問い合わせ下さい。

TEL 073-4231-2665

・電話ナビゲーションサービスは、「点字」ニュースのほか、全国情報、地域情報を合成音声で読み上げます。

全国共通サービス電話番号: 0570-021802
(固定電話からは1分間約10円、携帯電話からは20秒間約10円)
「記事内容」についてのお問い合わせは、日本視覚障害者団体連合情報部へ
TEL 03-3220-0011

「操作方法」に関するお問い合わせは、株式会社ラビットへ
TEL 0120-01963-896

第22回全国障害者
スポーツ大会での
和歌山県の成績
「いちご一会とちぎ大会」

10月下旬に栃木県で開催された第22回全国障害者スポーツ大会で和歌山県選手団は各々の競技に全力を尽くし、金メダル11個、銀メダル9個、銅メダル5個と合計25個のメダルを獲得するなど大変優秀な成績をおさめました。来年は、鹿児島県で開催されます。

【行事予定】

○12月11日(日)
バリアフリー映画上映会 (和歌山市)

○1月29日(日)
バリアフリー映画上映会 (田辺市)

○1月30日(月)
知事を囲む福祉懇談会 (和歌山市)

○2月5日(日)～6日(月)
県連盟幹部研修会 (白浜町)

○3月上旬
県連盟理事会 (和歌山市)

○3月4日(土)
見えない・見えにくい方のための交流サロン
「情報交換会」 (和歌山市)
○3月5日(日)
視覚障害者部会委員会 (和歌山市)
※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、行事は延期または変更、中止する場合がございます。